

地域密着型金融推進計画の進捗状況（平成17年4月～平成19年3月）

士別信用金庫

当金庫は、平成17年8月地域密着型金融推進計画を策定し、地元の事業者に対する支援目標を掲げ、地域経済の再生と中小企業金融の円滑化に向けて、役職員が一丸となり取組みを進めて参りました。本計画は、平成19年3月末で終了となり、主な進捗状況と評価並びに課題を取りまとめましたので、以下の通り報告致します。

1. 事業再生・中小企業金融の円滑化について

- 平成17～18年度は、51企業を経営改善支援先として「金融改革プログラム推進委員会」と「支援チーム」により改善を進めてきました。地域経済がさらに低迷を強めるなか、平成19年3月末でランクアップは2先の結果となりました。今後もランクダウン防止など、より一層の支援強化に努めます。
- 創業・新事業支援、企業実態把握力と支援スキルの強化へ向けて、各種モニタリング手法の定着化・有効活用に取り組めました。また、各種研修への参加、自主セミナーの開催、自己研鑽の推進など人材の育成・強化に積極的に取り組みました。地域経済情報はさらに厳しさを増しており、今後も継続的な取組により、一層のスキル向上に努めます。
- 各種無担保ローンの積極的活用により、地元事業先へ積極的な資金提供に取り組んで参りました。また、小口・中口融資の多数推進を基本に、各種無担保ローンを活用、担保・保証に過度に依存しない融資に取り組む、十分な成果が上がったと評価しております。今後も積極的な資金提供により、中小企業金融の一層の円滑化に努めます。

（主な事業用無担保ローンの融資実績17～18年度）

・ビジネス活性化ローン	8億2千7百万円	・カードローン・ポブラ	7億1千6百万円
・アタック30	6億9千7百万円	・新生ほっかいどう資金	6億6千5百万円

2. 経営力の強化について

- 収益力の維持・向上とリスク管理の強化に努めた結果、平成19年3月末の自己資本比率（バーゼルによる新基準）は、16.05%程度と当初目標の14%以上を達成することができました。
- 本計画の2年間に於いて、取引先企業の倒産が数件ありましたが、引き続き厳正な自己査定と適切な償却・引当並びに信用リスク管理の強化に努めた結果、平成19年3月末の不良債権比率は、2.96%程度と当初目標の3%以内を達成し、健全性を維持しております。
- 地元事業先への積極的な資金提供と収益力の向上策として、平成19年3月末の事業性貸出金残高目標を200億円とし、小口・中口融資の多数推進に積極的に取り組みましたが、倒産・廃業・財務改善等による残高落込みが予想以上に発生したことから、実績は194.8億円と目標未達成となりました。しかしながら、地域経済の低迷など厳しい情勢下において、全店をあげた推進を行い、最大限に努力した結果と考えております。
- 今後も、事業性貸出金の増強、事業先・家計取引の開拓・メイン化推進など、本業による収益力の維持・向上を最重要課題として努力して参ります。

3. 地域の利用者の利便性向上について

- ディスクロージャー誌、ホームページを活用し、地域貢献等についての情報開示と内容の充実に取り組みました。引き続き、積極的な情報開示とより分かり易い内容へ取り組み参ります。
- 当金庫に対するアンケート調査を定期的実施、調査結果を活用し「お客様満足度向上集中改善キャンペーン」を行うなど、経営改善に努めております。取組み状況はホームページで公表しております。今後もより多くの皆様の声を反映して行こうと考えております。

以上、本計画の主な取組み結果について報告致しました。当初の数値目標について、厳しい経済情勢の下、概ねクリアできたものと評価しております。

項目	平成19年3月末目標値	平成19年3月末実績値
経営改善支援先数	50先以上	51先
自己資本比率	14%以上	16.05%程度
不良債権比率	3%以内	2.96%程度
事業性貸出金残高	200億円	194.8億円

地域経済がさらに低迷を強めており、業績低下に苦慮する地元事業者に対し、より深度ある相談、より生きた支援ができるよう、今後も役職員一丸となって課題解決型金融の推進に鋭意取組む所存であります。

なお、より詳細な内容については、「地域密着型金融推進計画の進捗状況（詳細版）」及び「経営改善支援の取組み状況」「担保・保証に過度に依存しない融資推進」に記載しております。